

会 告

平成 17 年度学術基金援助の決定について	79
平成 18 年度日本農学賞候補の推挙について	79
研究部会長の交代について.....	79
平成 17 年度「研究グループ」の助成募集について	79
平成 18 年度農業土木学会賞候補の推薦について	80
平成 17 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 3 報） 	81
第 29 回水の週間「ウォーターフェア 05 東京」農業用水の展示出展について.....	82
2004 年度農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定	82
平成 17 年度農学系 JABEE 審査員養成研修会への参加のお願い（第 1 報） 	83
農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について.....	83
農業土木学会論文集投稿料の改定について（再々）.....	83
投稿原稿の閲読状況が確認できます！.....	84
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと	
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	84
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め.....	84
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します.....	85
学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について.....	86
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集	87
支部講演会の投稿票について.....	87
第 56 回関東支部講演会の開催について（第 1 報） 	88
第 60 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報） 	88
平成 17 年度農村計画研修会（第 27 回現地研修集会）について 	88
平成 17 年度農業土木学会資源循環研究部会発表会の発表申込みのご案内 	90
国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究会の開催について 	91
第 43 回粉体に関する討論会講演募集	92
農業土木学会論文集第 237 号内容紹介	93
学会記事	98

第 73 巻 7 号予定

展望：現場技術の再構築を：大串 和紀

小特集：現場における農業土木技術

小規模地下ダムにおける簡易ろ過システムの提案：宇田 毅

現場計測を活用した設計施工事例と考察：米山 元紹

営農排水技術の高度化による本暗渠工低コスト化の可能性：千葉 克己他

コウノトリとの共生に向けた生態系保全の技術展開：高林 主佳

ある小規模ため池の現地締固め試験と二三の考察：藤井 弘章他

地方分権時代における自治体農業土木技術者の人材育成：井関 健策他

技術リポート

北海道支部：住宅隣接地域下でのオープンピット工法による用水路改修状況（経過）の報告：石山 勝則他

東北支部：間伐材を利用した環境保全型水路の開発：渡辺 健他

関東支部：畑地帯の圃場整備の計画手法について：小倉 隆宏

京都支部：国営事業の環境配慮への取組み：榎 晃秀

中国四国支部：行政と大学の連携事例：三島 洋

九州支部：久保田海岸堤防嵩上げに伴う不同沈下対策について：山口 祐輔

講座：バイオマス利活用（その 2）：堆肥化技術：中村 真人

小講座：コスト縮減：佐藤 隆

私のビジョン：環境理工学と農業土木の教育・研究：西村 伸一

論文をかたる：久米 崇

農業土木学会（本部）行事の平成17年度計画

農業土木学会（本部）17年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓔのマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中(Ⓕ)を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成17年8月 23~26日	平成17年度大会運営委員会	平成17年度大会講演会		岐阜大学	73巻 13号

農業土木学会関連行事予定

平成17年5~6月	農業農村情報研究部会	勉強会			
平成17年8月 24日	応用水理研究部会	企画セッション	農業土木分野における応用水理学研究の課題	岐阜大学	
平成17年8月 24日	水文・水環境研究部会	企画セッション	メコンデルタの水文解析と氾濫域の環境保全農業	岐阜大学	
平成17年8月 25日	水土文化研究部会	企画セッション	水土文化資源の多面的利活用 水土の記憶を活かす	岐阜大学	
平成17年8月 25日	材料施工研究部会	企画セッション	地震による農業水利施設の被害、復旧工法、対策工法	岐阜大学	
平成17年8月 25日	農村計画研究部会	企画セッション	中山間地域直接支払いの評価と展望	岐阜大学	
平成17年8月 25日	資源循環研究部会	企画セッション	農業土木における資源循環への貢献 バイオマス資源利活用における課題と対応 エネルギー変換	岐阜大学	
平成17年8月 25日	畑地整備研究部会	企画セッション	高品質化と畑地灌漑	岐阜大学	
平成17年8月 25日	農業農村情報研究部会	企画セッション	農業土木における農業農村情報	岐阜大学	
平成17年8月 25日	農村生態工学研究部会	企画セッション	農村生態工学の展望と課題	岐阜大学	
平成17年9月 1日	畑地整備研究部会	第44回畑地灌漑研究集会		別府市	
平成17年9月 7,8日	農村計画研究部会	平成17年度第27回現地研修集会	豊かな農村資源を未来へ地域が取り組むさまざまな保全のかたち	福井市	73巻26号
平成17年10月 19日	中国四国支部	第60回支部講演会		高松市	73巻6号
平成17年10月 20日	関東支部	第56回支部講演会		甲府市	73巻6号
平成17年10月 27,28日	京都支部	第62回研究発表会		金沢市	73巻5号
平成17年11月 17,18日	水文・水環境研究部会	第18回シンポジウム	農林地および広域の水文・水環境	茨城大学農学部	
平成17年11月 10~11日	農地保全研究部会	農地保全研究集会及び現地見学会	未定	鹿児島市	
平成17年11月	資源循環研究部会	平成17年度研究発表会		幕張メッセ	73巻6号
平成17年11月 25日	土壌物理研究部会	第44回研究集会	環境修復と土壌物理	東京大学	
平成17年11月	農業水利研究部会	研修会			
平成17年11月 中旬	農村道路研究部会	平成17年度研究発表会及び現地見学会			
平成17年	材料施工研究部会	第43回シンポジウム			
平成18年3月	水土文化研究部会	第3回水土文化研究部会	先人達の「水土の知」	農業工学研究所	

学会誌73巻の小特集・特別企画のテーマ(74巻は、p 85参照)

小 特 集 テ - マ	要 旨 締 切 (A4判 1500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
73巻 8号 農業土木の防災技術(仮)	公募終了	
9号 農村における生物多様性、外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮)	"	
10号 施設管理の20年の歴史を振り返る(仮)	公募なし	
11号 農業水利施設のストックマネジメント(仮)	公募終了	平成17年6月15日
12号	公募なし	

平成 17 年度学術基金援助の決定について

学術基金運営委員会

平成 17 年度学術基金の援助は、平成 17 年 4 月 22 日開催の第 192 回理事会にて、下記のように決定いたしました。

記

学術基金による国際学会会議出席助成

竹内 潤一郎（京都大学大学院農学研究科助手）

XII World Water Congress for Sustainable

Development Toward Innovative Solution

第 12 回世界水会議 革新的な解決策に向けた持続可能な発展
のために

学術基金による研究奨励

宗村 広昭（島根大学生物資源科学部地域開発科学科 助手）

水田水管理システムの違いが流域へ及ぼす影響評価

丸居 篤（九州共立大学工学部環境サイエンス学科 助手）

新規干拓地の畑地利用と Na⁺ が作物に与える影響に関する研
究

平成 18 年日本農学賞候補の推挙について

平成 18 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記規程により、平成 17 年 9 月 15 日までに推薦下さいませよう、お願い申し上げます。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程（昭和 30 年 10 月 21 日制定
昭和 34 年 11 月 4 日改正
昭和 39 年 12 月 8 日改正
昭和 44 年 5 月 26 日改正
昭和 58 年 4 月 25 日改正）

第 1 条 この規程により、本会会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し、日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。

第 2 条 推挙する業績は、発表された論文または著書とし、本学会を代表する業績として、十分その価値が評価されるものとする。

第 3 条 推薦者（正会員）は、毎年 9 月 15 日までに、次の事項を記し、会長に推薦する。

ただし、必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。

（イ）候補業績（論文、著書名）

（ロ）候補者氏名（ふりがな）

（ハ）候補者所属、職名、学位

（ニ）候補者連絡先

第 4 条 推挙の決定は、理事会が行う。

研究部会長の交代について

下記の研究部会長の交代が行われました。

農業土木学会農村計画研究部会（平成 17 年 4 月 1 日付）

新 松尾 芳雄（愛媛大学農学部）

前 有田 博之

農業土木学会農業水利研究部会（平成 17 年 4 月 1 日付）

新 中村 好男（東京農業大学地域環境科学部）

前 水谷 正一

平成 17 年度「研究グループ」の助成募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 17 年 6 月 24 日（金）ですので、助

成金を希望される方は、期限までに、研究委員会委員長宛にお申込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします（詳細は、本誌 73 巻 5 号、会告 p.94 をご参照下さい）。

平成18年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成18年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。
締切りは、平成17年10月末日となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

平成18年度農業土木学会賞募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞		著作賞	環境賞	メディア賞	功労賞
		研究奨励賞	技術奨励賞	論文奨励賞	技術報告賞				
賞の趣旨	農業土木に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業土木に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業土木に関する学術または技術についての優秀な業績		一般に市販されている図書の中で、農業土木に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画、施工の事例および管理・保全活動	農業土木を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の種々を通じて、農業土木の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成12年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成14年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成14年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成16年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成15年10月から平成17年9月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成7年10月から平成17年9月までに出版されている図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。	平成15年10月から平成17年9月までに、本学会発行の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建築物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成15年10月から平成17年9月までに、発表された作品を対象とする。	平成17年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	本学会の会員				本学会の会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない			本学会の正会員
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。			学会誌・論文集の編集委員会の推薦、または正会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。		正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（何れも返却しない）。			正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書（様式参照）により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う								
賞の決定	理事会において行う								
表彰	農業土木学会大会講演会において会長が授与する								
推薦締切	平成17年10月末日								
提出先	〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 社団法人農業土木学会 学会賞選考委員会宛								

平成 17 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 3 報）

平成 17 年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 17 年度農業土木学会大会講演会は、平成 17 年 8 月 23 日（火）、24 日（水）、25 日（木）の 3 日間、岐阜市の岐阜大学キャンパスで開催されます。また、26 日（金）には現地研修会が行われます。

本報では、講演発表の方法など、いくつかの連絡事項についてお知らせします。

なお、割引のある大会参加申込みは 6 月 30 日が締切となっています。まだお申込みでない方は、学会ホームページからお申込みください。参加申込みの詳細は、本誌 2005 年 3 月号会告をご覧ください。

1. **印刷製本版講演要旨集は受注生産制です** 6 月 30 日までにお申込みください。締切後の申込みならびに大会当日の購入は出来ません。
2. **CD ROM 版講演要旨集は事前にお届けします** 6 月 30 日までに申込まれた方全員に、CD ROM 版講演要旨集を大会の約 2 週間前までにお届けします。
3. **大会概要集を発行します** 大会プログラム、学会賞受賞者プロフィール、発表者索引、全発表の 200 字概要、全体シンポジウムの要旨、現地研修会資料、企業団体広告等を一冊にまとめた大会概要集を発行します。大会当日、受付にて全員にお渡しします。
4. **参加費の会社経費・公費等によるお支払いに応じます** ご希望の方は「社費・公費払い」と明記してお申込みください。後日、請求書をお届けします。ただし、この場合の参加費は当日申込みと同様の扱い（一般 ¥7,000、学生 ¥5,000、印刷製本版講演要旨集ご希望の場合：一般 ¥12,000、学生 ¥10,000）とさせていただきます。
5. **講演会場までの交通** 講演会場の岐阜大学へは、JR 岐阜駅または名鉄岐阜駅から路線バスをご利用ください。中部国際空港から名鉄岐阜駅まで直通の特急電車（ミュースカイ、所要時間 55 分、料金 1,310 円）があります。
名古屋からの交通
JR（新快速）で JR 名古屋駅から JR 岐阜駅まで 18 分 450 円
名鉄（特急）で名鉄名古屋駅から名鉄岐阜駅まで 24 分 540 円
JR 岐阜駅前または名鉄岐阜駅前から岐阜バス・岐大キャンパス線 岐阜大学行（終点）、日中 10～20 分間隔、約 30 分、310 円
6. **交流会場までの交通** 大会初日夕方の交流会は、ホテルグランヴェール岐山（岐阜市柳ヶ瀬 6-14）で開催されます。講演会場の岐阜大学からは、送迎バスを手配しています。路線バスをご利用される方は、岐阜大学から岐阜バス・岐大キャンパス線柳ヶ瀬西口で下車（所要時間約 15 分）。
7. **講演発表の手順** 発表者は各会場にある発表者受付で、セッション開始時までに出席確認を済ませてください。各会場内前方に「次の講演者」席を設けてありますので、ここで順次待機してください。とくに発表にパソコンをお使いの方は、この席であらかじめパソコンをケーブルに接続し（プロジェクトにはパソコン用映像入力端子が 2 つ備わっています）、発表用ファイルを立ち上げたうえで発表をお待ちください。パソコンは各自でご準備ください。円滑な進行にご協力ください。
8. **プロジェクトと OHP について** 今大会では、全会場にプロジェクトと OHP を用意しています。休憩時間等にあらかじめ機器の扱い方を必ずご確認ください。発表準備室にもプロジェクトを用意しています。
9. **要旨集は休憩室でごらんいただけます** 閲覧用の講演要旨集を休憩室に備えますのでご利用ください。
10. **キャンパス内は禁煙です** 喫煙は指定されたスペースでのみお願いします。
11. **連絡掲示板（ホワイトボード）を設置します** 連絡用の掲示板を受付付近に設置します。参加者相互の呼び出し、集会の呼びかけ等にご自由に利用ください。事務局からの各種連絡、忘れ物等もこちらに掲示します。
12. **大会会場における電話呼び出しはいたしません** 岐阜大学事務部へのお電話はご遠慮ください。
13. **学会の出版物を展示販売します** 会期中、講演会場内に学会出版物の展示販売ブースを設けます。会期中は特別価格で販売します。後払いも可能です。学会出版物を手にとりご覧いただきご利用ください。
14. **会期中の昼食は大学内および周辺の食堂で** 会期中は大学内の食堂（2カ所）が営業しますのでご利用ください。また売店では弁当、おにぎり等も販売しています。なお、弁当の予約販売はいたしません。
15. **会議室のご要望について** 大会会期中、研究部会の幹事会や各種打合せ等のために会議室を必要とされる方は、7 月 31 日までに joroken@cc.gifu-u.ac.jp へお申し出ください。大会会

場内の会議室利用および昼食の手配について事前調整します。

16. 現地研修会の出発集合場所・時間ならびにコース 8月26日(金)の現地研修会は、愛知用水と愛・地球博コース、愛知用水と中部国際空港コースとも、JR 岐阜駅南口から出発します。8時50分までにお集まりください。

A: 愛知用水と愛・地球博コース 8:50 JR 岐阜駅南口集合 9:00 出発 10:30 愛知用水(東郷町) 11:30 「愛・地球博」会場(自由見学:万博会場で解散可) 17:00 頃 JR 名古屋駅到着

B: 愛知用水と中部国際空港コース 8:50 JR 岐阜駅南口集合 9:00 出発 10:30 県営農村活性化住環境整備事業「佐布里地区」(知多市) 11:30 愛知用水前山ダム(常滑市) 12:00 中部国際空港セントレア 14:00 広域農道「知多半島地区」(常滑市) 15:00 JA あぐりタウン「元気の郷」(大府市) 17:00 頃 JR 名古屋駅到着

*各コースとも経路は変更になる場合があります。また申込み者が少ないときは中止する場合があります(最少催行人員:約20名)。

17. 旅行手配について 本年度の大会運営委員会は、旅行の斡旋(宿泊、航空券等の手配)は行いません。なお本大会の参加

申込み受付業務を委託している近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店が、宿泊等の手配をお手伝いしています。ホームページのリンクをご覧ください。大会期間の前後および大会期間中、名古屋 岐阜近郊では「愛・地球博」をはじめ各種のイベントが集中しています。ホテル、旅館などが非常に混み合うことが確認されていますので、極力お早めの手配されることをお勧めします。

18. お問合せ先

大会全般に関するお問合せ:

平成17年度農業土木学会大会運営委員会事務局

〒501 1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部 松本康夫

☎&FAX: 058 293 2901, 2875

E-mail: matsumt@cc.gifu-u.ac.jp

参加申込みに関するお問合せ:

近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店 農業土木学会受付係 担当:重田,磯崎,林
〒450 0002 名古屋市中村区名駅2-45-19 桑山ビル2F
FAX: 052 583 5110 TEL: 052 583 5101

E-mail: shigeta924563@mb.knt.co.jp

第29回水の週間「ウォーターフェア05東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア05東京』は、例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、農業土木関係諸団体の協力を得て、農業土木学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年度までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。

出展準備は、関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所が

鋭意行っております。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示テーマ 「おどろきがいっぱい・見沼代用水」

展示の場所 科学技術館(千代田区北の丸公園2-1)

期 日 平成17年7月28日~8月2日

2004年度 農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定

2004年度に農業工学関連分野として日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)へ、プログラム認定を申請していた下記4校5プログラムは、平成17年5月12日のJABEE理事会においてすべて認定を受けました。

(なお、2004年度に認定を受けた全プログラムはJABEEのホームページに掲載されています。http://www.jabee.org/OpenHomePage/accredited_programs_bunya.htm)

岩手大学農学部 農林環境科学科
地域環境デザイン学講座

地域環境工学コース [2004]

岡山大学環境理工学部

環境管理工学科 [2004]

神戸大学農学部食料生産環境工学科

地域環境工学プログラム [2004]

神戸大学農学部食料生産環境工学科

バイオシステム工学プログラム [2004]

新潟大学農学部生産環境科学科

地域環境工学コース [2004]

平成 17 年度農学系 JABEE 審査員養成研修会への参加のお願い(第 1 報)
技術者教育認定に関する検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



標記農学系 JABEE 審査員養成研修会が、平成 17 年 8 月 6 日(土)~7 日(日)に東京大学弥生講堂において開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。奪って、ご参加ください。なお、プログラム等、詳細は 7 月号および学会ホームページに掲載いたします。

日 時：平成 17 年 8 月 6 日(土)~7 日(日)

場 所：東京大学弥生講堂〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内 <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

参加費：5,000 円(当日現金にて支払い) 懇談会費：2,000 円(当日現金にて支払い)

申込方法：農業土木学会ホームページより、申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記に電子メールで申込み。

申込締切：平成 17 年 7 月 22 日(金) 申込先：農業土木学会事務局 吉本峰子宛：mineko@jsidre.or.jp 花塚賀央宛：hanatsuka@jsidre.or.jp

JABEE 審査チームは、この研修の受講者で編成することが義務づけられています。特に大学の先生方の受講が少なく、このままでは審査要請に応じられない事態が予想され、非常に危惧しております。各大学間の相互支援でもありますので、先生方には是非受講くださるようお願いいたします。

農業土木学会論文集印刷用(完全版下)原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成 10 年 4 月 1 日以降受付の論文から、掲載適となった論文の最終原稿を A4 版完全版下で提出いただくこととなっております。

しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が悪いというご意見が多数事務局に寄せられるようになっております。

論文集編集委員会では、平成 10 年からすでに 7 年を経ており、現在はもう過渡期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、掲載適となった論文の最終 A4 版完全版下原稿が、投稿の手引き(学会ホームページに掲載)に則って作成されていない場合は、再提出をお願いします。
2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意ください。
3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局から業者を紹介いたします。

農業土木学会論文集投稿料の改定について(再々)

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、閲読料を平成 16 年度から値下げしたことに伴い、投稿料について、平成 16 年度第 1 回委員会(16.4.16 開催)および第 2 回委員会(16.7.20 開催)で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第 189

回理事会の承認を得ました。平成 17 年 4 月 1 日受付の原稿から実施しています。

平成 17 年 4 月 1 日以降：16,000 円 旧：20,380 円

投稿原稿の閲読状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲読状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号の上2桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は、「2004年度」を選択）

PDF ファイルの「閲読状況一覧表」（受付番号、閲読回数、閲読依頼日、閲読返送日）が表示されますので、自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」；International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年6月末には Vol 3, No 2 が発刊予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は278名(5月現在)と微増はしておりますが、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」；International Society of Paddy and Water Environment Engineering) を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年6月末には Vol 3, No 2 が発刊予定です。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)

の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor(13 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors **および** Editing Board **には世界各国から斯界の権威が就任しています。**
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO(Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA (Japan) , Dr . Ke Sheng CHENG(Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告：2003 年 1 月の PAWEES 設立から 2005 年 5 月までに、Editorial を除いて 110 本の投稿がありました。その国別内訳は、下記ようになっており、多くの国で認知されつつあることを、ご報告いたします。

国別投稿内訳：日本 73, 韓国 17, 台湾 3, イタリア 2, インドネシア 2, フィリピン 1, パキスタン 1, メキシコ 1, マレーシア 1, スリランカ 1, ナイジェリア 1, 中国 2, ブルガリア 2, スペイン 2, タイ 1

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74 巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004

東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業土木学会 学会誌編集委員あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌第 74 巻 1 号～第 74 巻 8 号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙,1,500字以内)	原稿締切 (刷上り4ページ厳守)
74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり(仮)	平成 17 年 6 月 24 日	平成 17 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 地域資源管理と農業土木政策の展開(仮)	平成 17 年 8 月 25 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号 農村と景観法(仮)	" 9 月 22 日	" 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ(仮)	" 10 月 25 日	" 12 月 15 日
6 号 大会関連 関東支部(仮)	公募なし	
7 号 湿地・湿原関連	平成 17 年 12 月 22 日	平成 18 年 2 月 15 日
8 号	公募なし	

74巻1号テーマ：おらが町の地域再生・町づくり（仮）

我が国の人口は平成18年をピークに減少に転じると見られていますが、中山間地域では既に過疎化という形で直面して、さらに超高齢化、農業後継者不足など、複数の問題を抱えているところです。これに関連して、地方財政の合理化を主目的とした平成の大合併が進行中で、平成18年3月までに43.6%減の1822市町村へと減少する予定です。また、地方分権の議論も盛んで、国と都道府県との間で税源と権益を巡る攻防が続いていて、今や地方自治は激動の時代を迎えているといえます。

一方で持続可能な地域づくりのための施策も、平成12年に策定された第2次環境基本計画では、持続可能な社会の構築のため、身近な地域段階における取り組みが重要とされています。この持続可能な地域づくりには、地域が環境に配慮することと、主体的で継続的な地域づくりが求められています。もともと農村地域には自然資源、歴史資源、観光資源などの多くの可能性を秘めた地域資源が眠っています。それらの持続可能な地域資源を活用した地域づくりには、行政からのものであったりNPO主導であったり、いろいろな道筋がありますが、住民の理解と協力は不可欠で「住民参加型の地域再生」が一つの成功の鍵であるようです。

本特集では、住民主体で地域の環境、生活基盤、産業をどう守り、地域資源をどう活用していくか、またその取り組みについて、会員皆様からみた現状分析および課題、先進的事例、ご意見等、関連報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ:1,200字(写真・体裁等含む)

刷り上がり1ページ以内(原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、受理された自主投稿原稿につきましては、できるだけ受理順に掲載するべく努力いたしておりますが、平成17年4月末時点で、掲載をお待ちいただいている原稿は22本あります。執筆者の方々には、大変ご迷惑をお掛けしていること、深くお詫びいたします。

しかしながら、昨今の財政事情から、学会誌1号分ページ数を縮減せざるを得ず、受理したにもかかわらず、直近の号に掲載することが出来ない状況となっております。

編集委員会では、このような状況を勘案し、当初企画を変更して、自主投稿原稿号を設けることといたしました。

掲載待ちの執筆者には大変ご迷惑をおかけしておりますが、もうしばらくお待ち下さいますようお願いいたします。

なお、ご投稿いただきました原稿の中には、論文集の研究報文に適したのものもと思われます。論文集は受理後、直近の号に掲載することとなっておりますので、今後、論文集へのご投稿もご考慮いただきますよう、よろしく願いたします。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 18 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第 74 巻（平成 18 年 1～12 月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4 枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. **趣 旨** これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルの場合は高画質で、ほぼ 400 万画素以上を目安に）、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。
3. **枚 数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. **締 切** 平成 17 年 9 月 30 日（必着）
5. **審 査** 審査委員会（編集委員と写真家）で 12 点を選びます。
6. **結果発表** 学会誌 74 巻第 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 18 年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞 品** 入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。
8. **応募資格** 会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ）を記入して下さい。また、対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、（社）農業土木学会に属します。
10. **宛 先** 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4（社）農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投票規定に従って下さい。

第56回関東支部講演会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日程：平成17年10月20日(木)
 支部大会 10:00~11:00
 講演会 11:00~16:00
 情報交換会 17:30~19:00
 平成17年10月21日(金)
 現地研修会 8:30~16:00
2. 場所：山梨県甲府市内
3. 参加申込
 (1) 講演会, 情報交換会, 現地研修会
 上記申込み締切日：平成17年8月31日(水)
 (2) 講演申込
 申込方法：講演希望者は、講演者氏名、演題(仮題で
- も可), 講演要旨(200文字以内)を明記のうえ、事務局
 あて申込みください。
 申込締切日：平成17年7月29日(金)
 原稿締切日：平成17年8月31日(水)
 講演時間：15分以内(質疑応答時間含む)
4. 問合せ先
 山梨県農政部耕地課
 〒400 8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6番1号
 ☎055 223 1627 FAX 055 223 1624
5. その他 詳細は、本誌8月号に掲載する予定です。

第60回中国四国支部講演会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 講演会
 (1) 日時：平成17年10月19日(水)
 (2) 会場：香川県県民ホール
 〒760 0030 香川県高松市玉藻町9番10号
 TEL 087 823 3131 FAX 087 823 3124
2. 情報交換会
 (1) 日時：平成17年10月19日(水)
 (2) 会場：香川県県民ホール多目的大会議室
3. 現地研修会
 (1) 日時：平成17年10月20日(木)
 (2) コース：中央公園発 香川用水記念公園【現地研修】 水
 資源機構宮香川用水施設緊急改築事業香川用水調
 整池【現地研修】 昼食(琴平) 県営農村振興
 総合整備事業せんつうじ地区【現地研修】 国営
 総合農地防災事業香川地区【現地研修】 JR高
 松駅着
- 行き先については変更する場合があります。
4. 問合せ先(講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしています
 ので注意下さい。)
- 講演会発表原稿提出窓口
 農業土木学会中国四国支部事務局 藤原正幸
 〒790 8566 松山市樽味357
 愛媛大学農学部地域環境工学コ-ス
 ☎/FAX 089 946 9890
 E-mail fujihara@agr.ehime-u.ac.jp
- 講演会参加申込窓口
 香川県農政水産部土地改良課 計画調査・指導グループ 井
 川, 好井
 〒760 8570 香川県高松市番町4丁目1番10号
 ☎087 832 3437(直通) 087 831 1111(代表)
 FAX 087 837 7161
5. 詳細 本誌7月号に掲載予定です

平成17年度農村計画研修会(第27回現地研修集会)について
農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- な保全のかたち~
1. 主催：農業土木学会農村計画研究部会
 後援：福井県, 水土里ネットふくい(福井県土地改良事業団
 体連合会)
 協賛：農村計画学会
2. テーマ：豊かな農村資源を未来へ~地域が取り組むさまざま
3. 日程：平成17年9月7日(水) 研修集会
 8日(木) 現地検討会
4. 会場：福井県民会館大ホール(福井県福井市大手3丁目11
 17)
5. プログラム

- (1) 研修集会 平成 17 年 9 月 7 日(水) 9:30~17:00
 8:45~9:30 受付
 9:30~9:45 開会挨拶
 9:45~10:50 基調講演「地域の豊かさとは何か」
 福井県立大学学長(京都大学名誉教授) 祖田修
 10:50~11:00 休憩
 11:00~12:00 特別講演「農村力をデザインする」
 池田町長 杉本博文
 12:00~13:00 休憩
 13:00~13:35 事例報告「かみなか農楽舎の歩みと活動報告」
 (有)かみなか農楽舎代表取締役 馬場康一郎
 13:35~14:10 事例報告「子供の夢を地域の宝に」
 九頭竜川下流地区地域用水対策協議会事務局長 竹内統一
 14:10~14:45 事例報告「地域用水を活かした足羽の郷」
 足羽川堰堤土地改良区連合専務理事 吉川 強
 14:45~15:05 情勢報告 農林水産省農村振興局
 15:05~15:20 休憩
 15:20~16:50 パネルディスカッション
 コーディネータ
 石川県立大学教授(京都大学名誉教授) 高橋 強
 パネリスト
 池田町長 杉本博文
 (有)かみなか農楽舎代表取締役 馬場康一郎
 九頭竜川下流地区地域用水協議会事務局長 竹内統一
 足羽川堰堤土地改良区連合専務理事 吉川 強
 農林水産省農村振興局
 16:50~17:00 閉会挨拶
- (2) 現地検討会 平成 17 年 9 月 8 日(木) 8:30~15:30
 8:30 福井駅東口 集合
 8:45 福井駅東口 出発
 研修の場所
 「風格のあるほっとランド」今立郡池田町
 「水と戯れ歴史を辿る一乗浪漫」福井市一乗地区(中山間地域総合整備事業一乗地区)
 「人々の心をうるおす清流の郷」福井市楨山地区(水環境整備事業楨山地区)

15:30 福井駅東口 解散

6. 参加費用

研修集会参加費 一般 5,000 円 学生 2,500 円
 現地検討会参加費 5,000 円(昼食代 1,000 円含む)

7. 参加申込

参加をご希望の方は参加申込書(部会 HP からダウンロードして下さい)に所要事項を漏れなく記入の上、FAX または郵送にてお申込み下さい。なお、原則として団体ごとにまとめてお願いいたします。

申込み多数の場合は、定員 400 名に達し次第締切らせていただきますので、あらかじめご了承下さい。

(1) 申込期限 平成 17 年 7 月 22 日(金)

(2) 申込先 農村計画研修会現地運営事務局
 〒910 8580 福井県大手三丁目 17 番 1 号
 福井県農林水産部農村振興課
 担当: 松田富美子 西出泰啓
 ☎0776 20 0454 FAX 0776 20 0656

(3) 参加費の納入

申込みをいただきますと 8 月上旬に請求書をお送りしますので、請求書の指定口座に振込んで下さい。なお、振込み手数料は参加者負担でお願いします。

(4) 申込の変更・取消

8 月 15 日(月)までに現地運営事務局まで FAX にてお申出下さい。それ以降の取消しについては、参加費の返還ができませんので、あらかじめご了承ください。

8. 宿泊施設

参加者各自でお申込み下さい。

9. その他

その他詳細は、部会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2005fukui.htm>)をご覧ください。

【現地研修集会に対する問合せ先】

農村計画研修会現地運営事務局
 〒910 8580 福井県大手三丁目 17 番 1 号
 福井県農林水産部農村振興課
 担当: 松田富美子 西出泰啓
 ☎0776 20 0454 FAX 0776 20 0656

平成17年度 農業土木学会資源循環研究部会研究発表会の発表申込みのご案内

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村における水やバイオマス等有機資源の利活用及び循環に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流に寄与することを目的として、平成15年4月に、農業土木学会資源循環研究部会が発足しまして2年が経過しました。

昨年度、第2回の研究発表会を企画したところ、発表者、聴講者とも多数の参加をいただきました(聴講者数170名)。本年度もより多くの関心ある方に参加いただけるよう、「EFAFF 2005(第6回農林水産環境展)」の開催に併せて、日本コンベンションセンター国際会議場(幕張メッセ)で開催することを企画しています。

つきましては、農業土木学会資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。また、部会員登録は随時受付けていますので、現在部会員ではない方も、部会員登録を行った上で応募することが可能です(部会の年会費不要、農業土木学会員以外も登録可能)。

なお、発表会の聴講申込みにつきましては、詳細が明らかになり次第、おって学会誌、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)、地域資源循環技術センターホームページ(<http://www.jarus.or.jp>)等でお知らせします。

1. 開催日 平成17年11月29日(火)~12月2日(金)のうち一日 10:00~16:00
2. 会場 日本コンベンションセンター国際会議場(幕張メッセ)
3. 内容 農村における水やバイオマス等有機資源の利活用及び循環に係る調査・研究の最新成果
4. 発表要領及び申込み方法

(1) 発表要領

ア 発表者の資格

農業土木学会資源循環研究部会員とします。(申し込みと併せての入会も可です)

イ 発表の内容

農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る調査・研究の成果(農業集落排水技術全般、バイオマス利活用、水資源再利用、汚泥再資源化技術等)

ウ 発表方法

個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。発表を補助する映像機器として、パソコン画像を投影できるプロジェクターを用意します。

エ 発表時間

20分程度/人(発表17分、質疑応答3分程度)の予定です。

オ 発表要旨集

聴講者に発表内容を十分理解していただくため、発表要旨をとりまとめた論文集を作成し配布します。

カ 審査

まず、査読委員会において、発表要旨概要(別添申込み用紙に記入したもの)を対象に査読・審査し、内容的に了承が得られた課題を採択する手順を採ります。

審査を経て発表することとなった課題については、上記

の発表要旨集に掲載する原稿を作成していただきますが、これについても同委員会において査読を行い、場合によっては、加筆修正をお願いすることがありますので、その旨ご了承ください。なお、査読基準に関しましては追ってメール等にてご連絡いたします。

キ その他

優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰することを予定しております。

(2) 申込み方法等

次頁の申込み用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込みは、原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

締切りは平成17年6月24日(金)必着とします。

応募多数の場合、上記1(カ)で紹介した査読委員会において審査された結果に基づき、発表課題を絞込させていただきますこととなります。発表課題の選定は、応募締切後速やかに実施し、事務局から応募者に結果をお知らせいたします。

発表が決定した応募者には、発表要旨集に掲載する原稿の作成をお願いいたします。おって事務局から詳細を連絡しますが、枚数は、図・表・写真等を含め、1課題につき最低A4版6頁程度とする予定です。

(3) 申込み・問合せ先

農業土木学会 資源循環研究部会

事務局：社団法人地域資源循環技術センター企画情報室
画情報班(担当：小嶋 義次(こじまよしつぐ))

〒105 0012 東京都港区芝大門一丁目1番3号

日本赤十字社ビル

☎03 3432 6282, FAX 03 3432 0743,

E mail:sigen@jarus.or.jp

国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について

テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主催：PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering (国際水田・水環境工学会)
共催：日本学術振興会，農業土木学会，韓国農工学会，農業工学研究所，IWMI，IRRI，CIGR，AAAE，国際農林水産研究センター，ICID，農業農村整備情報総合センター，FAO Japan，INWEPF (予定)

1. 日時：2005 年 9 月 (水) ~ 8 日 (木)
2. 場所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

4. 意義と目的

米は，世界の約半分の人口が主食としている穀物であり，波及する経済も考えた場合，地球で最も重要な作物のひとつといえます。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給，貧困，さらに環境などの問題解決においては，水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005 年 9 月に京都において開催される国際研究集会 [持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理] を主催する国際水田・水環境工学会 (PAWEES) は 2003 年 1 月に設立されました。これは，第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題，なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を，流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し，環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し，その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は，設立以来世界各地の大学，研究機関，行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また，学会が発行している学術誌「水田・水環境 (PWE) 」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は，内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた，当分野において主導的役割

を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで，最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに，水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し，将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに，過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し，食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに，研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに，その他の諸国の広汎な連携が推進されることも期待されています。

このように，水田・水環境に関連する研究・技術に携わっている方々にとっては非常に意義のある研究集会ですので，ふるってご参加願います。

本事業は独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) の助成事業です。

5. 参加登録：

登録期間：平成 17 年 1 月 1 日 ~ 7 月 10 日 (7 月 10 日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)
参加登録費：10,000 円
講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

6. 問合せ先

松野 裕 (PAWEES 事務局長)
近畿大学農学部国際資源管理学科
〒631 8505 奈良市中町 3327 204
E-mail : matsuno@nara.kindai.ac.jp
吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)
(社) 農業土木学会事務局
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館 3 階 1 号
E-mail : pawees 2005@jsidre.or.jp

第43回粉体に関する討論会 講演募集

1. 日 時;平成 17 年 11 月 2 日(水)~11 月 4 日(金)
2. 会 場;韓国 国立釜山大学校 上南国際会館
〒609 735 釜山広域市金井区長箭洞山 30
TEL+82 51 510 7000, FAX+82 51 583 7070
3. 討論主題;1. 粉体, ナノ粒子の生成
2. 機能性微粒子と新素材
3. 粉体物性
4. バイオ・医薬・食品・化粧品と粉体
5. リサイクル・環境・エネルギーと粉体
6. 粉体プロセス・シミュレーション
7. 粉体一般
一般講演(ポスター発表を含む), 特別講演, 会社
カタログ・パネル展示を予定
4. 特別講演;4 件
5. 一般講演;口頭発表とポスター発表を予定
発表言語は英語です。母国語(日本語もしくは
韓国語)の使用(講演, 要旨共)がどうしても
必要な場合にのみ, 申込み時にその旨を届け
ていただき御使用下さい。
6. 展 示;カタログ・パネル展示
7. 懇 親 会;平成 17 年 11 月 3 日(木)午後 6 時 30 分から午後
9 時まで(上南国際会館, HYOWON ホールにて)
8. 締 切;講演申込締切;7 月 1 日(金)

予稿原稿締切;9 月 9 日(金)

参加申込締切;9 月 23 日(金)

その他の詳細(申込み方法, 共催, 協賛学協会
等)については以下のホームページをご覧いただ
くか, 下記連絡先までお問合せ下さい。

URL:[http://www.che.kyutech.ac.jp/chem21/Busan
43 J/B 43 J.html](http://www.che.kyutech.ac.jp/chem21/Busan43J/B43J.html)

:[http://home.pusan.ac.kr/ busan 43/](http://home.pusan.ac.kr/busan43/)

9. 参加費;一般(共催学協会所属会員):10,000 円(当日
12,000 円)

一般(その他):12,000 円(当日 14,000 円)

学生 :5,000 円

懇親会費 :5,000 円

今後の新情報, 変更等も随時ホームページに掲載いたしますの
で, 上記の URL でお確かめ下さい。

10. 連絡先;第43回粉体に関する討論会 日本側事務局

〒805 8550 北九州市戸畑区仙水町 1 1

九州工業大学工学部 物質工学科 応用化学教室
鹿毛浩之

☎093 884 3325, FAX 093 884 3300

(応用化学事務室)

E-mail:funto43@che.kyutech.ac.jp